

タイでは2011年、モンス  
ーン期の7月から断続的に続い  
た100年に一度とも言われる  
記録的な大雨により、大規模洪  
水が発生し、大きな被害を受け  
た。東南アジアに展開する日系  
企業の集積地であるアユタヤに  
おいても、パサック川の逆流に  
よって多くの工場で洪水浸水被  
害が発生。長期にわたって操業  
停止を余儀なくされた。地域住  
民も住宅の浸水などにより、大  
きな被害を受けた。

甚大な洪水被害を踏まえ、防  
災・減災に向けた洪水対策の一  
環で、国際協力機構（JICA）  
の資金協力を得て水門2基が建  
設されることになった。

プロジェクト名は「パサック  
川東部アユタヤ地区洪水対策計  
画」。工期は13年7月～15年9

海外建設協会

プロジェクト便り

## パサック川東部アユタヤ地区洪水対策計画

### 前田建設

## 地域の理解深め施工課題解決

月。工事場所はアユタヤ、ハン  
トラ水路とクラマン水路のパサ  
ック川につながる合流点付近。  
当社が施工を担当。水門2基の  
ほか、ハントラ水門下流に低水  
路護岸を建設し、洪水被害の解  
消を図る。

二つの水路は農業用のかんが  
い用水路として重要な役割を果  
たしており、周辺の稲作地は多  
毛作であるため、せき止めるこ  
とができない。また、工事場所  
は作業ヤードの幅が狭いことに  
加え、道路や鉄道橋に近接して  
いるため、工事期間中の仮設水  
路の設置ができないという問題  
点を抱えていた。

こうした施工に関する問題に



水門

パサック川の洪水対策で整備さ  
れたクラマン水門①とハントラ

## 日本から高度技術を移転・伝承

つては、タイ農業灌漑省の協  
力の下、耕作者と粘り強く協議  
を進めながら地域の理解を深め  
ていった。関係者からの合意を  
得て、既存の水門を一定期間せ  
き止めることが可能となった。

新設する水門の土木工事は、  
河川床における超軟弱地盤上で  
の施工となった。PC杭とコン  
クリート矢板は、使用する重機  
の自重による側圧（掘削時も含  
め）により、打設後の変位が予  
想された。このため、できる限  
り杭や矢板に側圧がかからない  
よう打設順序を工夫し、施工足  
場や一部地盤改良を盛り込むな  
ど、入念に計画を立て、所定の  
施工品質の維持確保に努めた。

水門のゲートや巻き上げ機な  
どは、品質重視で日本製とした。  
日本で製作後、分割輸送し、現  
地で組み立てた。特にステンレ  
ス製のゲートの溶接に関して  
は、日本から技術者を派遣。6  
CSV（共有価値の創造）経営  
の観点から、地域の社会課題解  
決のために貢献していきたいと  
考えている。

（土木事業本部海外部営業グ  
ループ長・金澤賢次）

現場には自動水位観測計や停